

研究課題名	胃内視鏡的粘膜下層剥離術後の内視鏡的手縫い縫合における縫合法別の有用性に関する検討
所属(診療科等)	長崎みなとメディカルセンター 消化器内科
研究責任者(職名)	岡村 卓真 (医長)
研究期間	承認日 ~ 2025年 12月 31日
研究目的と意義	本研究の目的は広く普及した軟性内視鏡による消化管腫瘍切除法において、治療後の創に対する手縫い縫合の有用性を検討することです。本研究により創処置が有用と考えられれば、今後の内視鏡的粘膜下層剥離術の偶発症のリスク低減が期待できます。
研究内容	●対象となる患者さん
	消化管腫瘍の患者さんで、当院にて2023年1月1日~2024年12月31日の間に内視鏡的切除の適応病変と診断され内視鏡的粘膜下層剥離術後の創に対して手縫い縫合の治療を受けた患者さん
	●利用する情報
	<ul style="list-style-type: none"> ・患者背景；病名、病歴、年齢、性別、身長、体重、薬剤服用歴 ・自覚所見：発熱、腹痛、嘔吐の有無 ・臨床検査：白血球数、血小板、CRP ・画像検査：内視鏡検査 ・有害事象：術中穿孔、術後穿孔、術後出血
	●研究方法
	<p>上記の情報をカルテより収集し、下記について検討します。</p> <p>本研究では、当院における胃腫瘍罹患患者様のうち内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)後に内視鏡的手縫い縫合法を行った症例を対象とし、診療情報を用いて治療開始前から治療後6日目での内視鏡検査・治療情報を用いて後方視的に、EHSの縫合にかかる時間や離開率、離開に関わる粘膜欠損面積の算出、縫合法別の有用性を検討する。</p>
問い合わせ先	<p>所属：長崎みなとメディカルセンター 研究開発センター</p> <p>住所：長崎市新地町6番39号</p> <p>電話：095(822)3251 (内線3553)</p> <p>受付時間：月~金 9:00~17:00 (祝・祭日を除く)</p>